

ごあいさつ

2014 年度に入り、国土強靱化基本計画、インフラ長寿命化基本計画などが相次いで公表され、世界で最も厳しいとされる自然環境のもとで、国土や施設の安全確保や長期的維持管理が進められようとしています。近い将来発生することが予測されている南海トラフ地震や首都圏直下地震など、「国難」と表現される事態に対しての準備は重要な課題です。また、急速に進む構造物の老朽化に対して維持管理や長寿命化が重要な課題であることが社会的に認知され、前述の地震防災とともに対応が進もうとしています。

先の広島での集中豪雨は甚大な被害をもたらし、多くの方々の命が奪われ、またさらに多くの方々の生活基盤が揺らぐ事態となりました。このような時間雨量が 100mm を超える記録的短時間豪雨は、広島に限らず全国各地で発生し災害に結び付いています。さまざまな機能が発達した現代社会は、以前よりも厳しくなった自然の脅威に対して、過去の災害の経験からだけでは考えられないような、ぜい弱さを持つものとして対処する必要に迫られています。このような気象の変化は、地球温暖化も大きな要因と考えられ、それぞれの地域の自然災害のリスクに対してハードやソフト面で対応していくというローカルな対応にとどまらず、地球温暖化という地球環境問題そのものにも踏み込んだ対応が迫られていると考えられます。最重要政策として国土強靱化が打ち出された今、建設業の担う役割は従来にもまして重要なものとなっていると考えられます。

飛鳥建設は、災害や激変する地球環境から、人々の暮らしと命を守るという建設事業の根源的な使命を「防災のトビシマ」という標語であらわし、防災・減災に関わる技術、環境に関わる技術、社会基盤を維持し持続可能なものとしていく技術など様々な面から、安全・安心な社会を築き、堅持していくことに貢献すべく、全社を挙げて取り組んできました。「防災のトビシマ」を進化させ、これまでも増して、安全・安心な国土づくりへの貢献という社会的使命と役割を果たしてまいり所存です。

今回お届けする「とびしま技報」第 63 号では、当社の取り組んでいる技術開発の成果や建設現場での施工に関わる成果のうち、10 編を掲載いたしました。多くの皆様方に御高覧いただければ幸いです。

私どもの活動が、日本ひいては世界の人々が安全・安心に暮らせる環境づくりに、また、持続可能な社会の構築に少しでもお役に立ちますよう、研究開発とその成果の社会への実装に力を注いでいく所存です。これまで同様、トビシマへの御指導、御鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

2014 年 9 月
執行役員
技術研究所長
三 輪 滋